

令和5年度京都大学教室系技術職員スキルアップ研修報告書

危険体験・体感教育 安全衛生研修

1. はじめに

教室系技術職員に対して、職務に必要な能力・知識を習得させ、率先して業務に取り組む姿勢を養い、自覚と資質の向上を図ることを目的として、職場で発生する可能性がある危険を実際に体験することによって、労働災害を未然に防ぐ能力の習得を目的として企画した。座学や実際に働いている現場では体験することが難しい危険体験・体感教育を実際に経験するためにコベルコビジネスパートナーズ株式会社の実施する研修に参加し受講した。

2. 日程

令和6年2月14日(水)と令和6年3月6日(水)の両日で研修内容は同じ。

日程表

8:30	集合・出発(京都大学百周年時計台記念館前道路)貸切バスで移動
11:00～11:30	座学(災害発生のしくみ、ヒューマンファクターとは、体験・体感のポイント)
11:30～12:00	フォークリフト体験教育(死角認識体験、車体巻き込まれ体感、積荷飛散・落下体感)
12:00～12:45	昼食休憩
12:45～12:55	高圧電気感電体感(高圧(6000V)は充電部に触れることなく感電することを体感)
13:00～13:50	電気感電体験・体感教育(低圧電気感電体験、漏電体感・アーク放電体感、短絡(ショート)体験、センサー危険体感)
13:50～14:00	休憩
14:00～14:50	回転、油圧・空気圧装置危険体験・体感教育(回転速度体験、ロールによる巻き込まれ体験 油圧操作による挟まれ体感、空気圧による挟まれ体感、高速回転危険体験)
14:50～15:10	粉じん爆発体感・ガス爆発体感
15:10～15:20	休憩
15:20～16:00	高所危険体験・体感教育(安全帯着用マネキン墜落体感、墜落制止器具着用ぶら下り、 6m高所サウンドドバック墜落体感、6m高所開口部歩行体験)
16:00～16:30	玉掛け作業危険体験・体感教育(リフティングマグネット吊り荷落下体感、 4本吊りハッカー引っかかり回転体感、芯ずれによる荷振れ強さ体験、 1本吊りワイヤー撚り戻し回転切断体感)
16:30	貸切バスで移動
18:30 頃	到着次第、解散(京都大学百周年時計台記念館前道路)

3. 参加者名簿

令和6年2月14日(水)

No,	所属	氏名	所属群	専門分野	職務内容
1	人間・環境学研究科	吉田あゆみ	第3群	化学	全学共通科目化学系 実験および学部学生 実験
2	医生物学研究所附属感染症モデル 研究センター	小中さつき	第4群	マウスの生殖工 学	マウス作製支援

3	医生物学研究所附属感染症モデル研究センター	宮地均	第4群	マウスの生殖工学	マウス作製支援
4	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	長谷川敦史	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
5	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	大橋健太	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
6	フィールド科学教育研究センター芦生研究林	細見純嗣	第4群	森林管理	森林管理、林道維持、境界維持
7	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	山内隆之	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
8	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	紺野絡	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
9	エネルギー理工学研究所 附属エネルギー複合機構研究センター 宇治キャンパス	大村高正	第2群	真空技術	電子顕微鏡管理 機械工作
10	工学研究科技術部 技術室地球建築系グループ	藤平剛久	第2群	建築学専攻	構造実験支援
11	工学研究科技術部 技術室地球建築系グループ	野村昌弘	第2群	建築学専攻	構造実験
12	工学研究科 附属桂インテックセンター	西崎修司	第1群	低温・機械	寒剤供給業務
13	工学研究科技術部 化学電気系グループ	植田義人	第3群	化学	学生実験運営
14	工学研究科 附属環境安全衛生センター	青木健朗	第3群	安全衛生	研究科の安全衛生に関わる業務

令和6年3月6日(水)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	職務内容
1	複合原子力科学研究所技術室	前本桂太	第5群	機械	放射線管理
2	複合原子力科学研究所技術室	荻野晋也	第5群	機械	研究炉冷却系保守管理
3	複合原子力科学研究所技術室	飯沼勇人	第5群	電気	実験設備管理
4	人間・環境学研究科	高橋輝雄	第2群	機械	研究や学生実験に必要な機器の設計・製作
5	人間・環境学研究科	有村恭平	第2群	実験物理学	「物理学実験」の実験機器の保守点検等種々の業務

6	医生物学研究所附属再生実験動物施設	俣野真帆	第4群	実験動物	実験動物施設の管理
7	医生物学研究所附属感染症モデル研究センター	宮地均	第4群	マウスの生殖工学	マウス作製支援
8	欠席				
9	農学研究科附属農場	野中勝利	第4群	農業分野	花卉鉢物栽培
10	農学研究科附属農場	岸田史生	第4群	農学	作物栽培管理
11	農学研究科附属農場	若原浩義	第4群	農学	植物栽培管理 実験実習補助
12	農学研究科附属農場	小西剛	第4群	農学	植物栽培管理 実験実習補助
13	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	西岡裕平	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
14	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地	荒井 亮	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理

4. まとめ

技術職員にとって安全に業務を行うことは日頃から意識すべきことであるが、実際の業務の中で自分の行為がどれだけ危険かを体験する事はできない。もし業務の中で危険を体験できれば、それはすなわち労働災害となるであろう。よって、もし業務で起こりうる事象をあらかじめ研修として体験できれば、それを避けることが当然となり、労働災害が発生しない職場が継続できる。今回のコベルコビジネスパートナーズ株式会社の実施する研修で紹介された「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」(出典「荀子(じゅんし)」儒効編)の言葉のように、体験することがどれだけ重要かをこの研修を通して実感することができた。意図に反して起こるヒューマンエラーを自覚し、わかっているがめんどうだから意図的にやってしまう不安全行動をなくすためにも身をもって体験する研修は今後も非常に重要だと感じた。体験型の研修は1回受けたらOKではなく、何年かおきに繰り返し受講し、事故やケガのない現場を続けて行くことがとても重要である。研修の中で紹介されていたが、労働災害で亡くなる方は減っているがそれでも年間1,000人程度、さらに休業4日以上労働災害は年間13万人以上とのことであった。その中に京都大学の関係者が入ることがない様にこの研修が役立って欲しいと感じた。

以上



令和6年2月14日(水) 参加者



令和6年3月6日(水) 参加者